

□1月12日礼拝説教(隅野徹牧師)短縮版

「わたしの心に適う者」(マタイ3:13~17)

私は今日のメッセージで中心聖句として捉えているのが15節です。イエスは、「正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです」とおっしゃったのですが、この「正しいこと」という元の言葉は、他の聖書箇所では「義」と訳されている言葉だそうです。「義」とは、人間が行うべき正しいこと、という意味で理解できますが…その理解で、ここでのイエスの言葉を解釈するならば…「わたしイエスは、『本来人間が行うべき正しいこと』をすべて行うことは、天の父の御心なのです」とおっしゃったこととなります。

つまりイエスが洗礼をお受けになったのは、それがご自身にとって必要だったからというより、「人間が行うべき正しいこと」を、救い主として受けて下さるためだったのです。神の前で「罪を告白し」、「悔い改めて、神と共に新しく生きていく」ことのしるしとして洗礼を受けること、それは「すべての人間が行うべき正しいことなのだ！」ということがイエスから伝えられている！そのように私は受け取りました。

洗礼は「クリスチャンになりたい人だけが受けるもの」ではありません。そうではなく「本当なら、すべての人が受けてほしい！」そのように私は願って、牧会をしています。ある年齢に達したから「洗礼を受ける」とか「ミッションスクールに入りたくらいから受ける」とか、洗礼を一種の通過儀礼のように捉える見方がありますが、そういう「箔をつける」ものでは全くないということが今日の箇所からも理解できると思います。

そもそも洗礼とは、マタイ福音書の最後にイエスご自身が「すべての人に洗礼を授けなさい」と言われているように、「神の前に罪を告白し、悔い改めて、神と共に新しく生きていくことのしるし」として、すべての人が受けることを神ご自身が願われているものです。私は幼児洗礼を授けない方針ですが、「こどもからご年配まで、すべての方が、自分の口で、イエス・キリストのことを『自分を罪から救う救い主だと告白し』、洗礼をうけてほしい」と切に願い、祈りを積み重ねてまいります。(終)